

徳川家康

昨年、12月17日で最終回となりました大河ドラマ「どうする家康」ですが、主人公の徳川家康はどんなイメージでしょうか。よく言われるのは「鳴かぬなら鳴くまで待とう時鳥」とあるように、辛抱強く待てる人物を想像させられます。

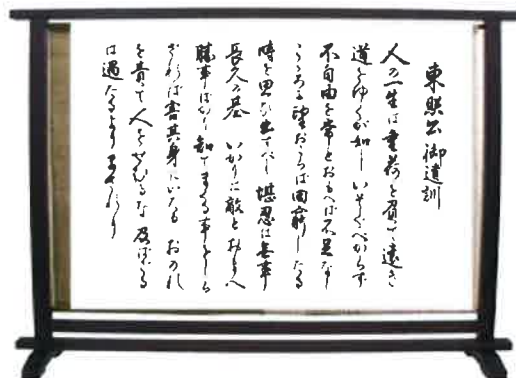
家康は幼少の頃、今川家や織田家の人質として生活を送っていたことや、数多くの苦渋の決断をしてきた人物であることから、一般的なイメージは「忍耐の人」という人物評価がされています。そんな家康ですが、数ある家臣の中には大変優秀な人材が多く揃っていたこと、そしてその家臣を上手く使う手腕は素晴らしいものであったと言われ、「良きリーダー」としてエピソードが後世に多く残されています。

「人の一生は重荷を負て遠き道をゆくが如し いそぐべからず 不自由を常とおもえば不足なし ころろ望みおこらば困窮したる時を思い出すべし 堪忍は無事長久の基 いかりは敵とおもへ 勝事ばかりを知てまくる事をしらざれば害其身にいたる おのれを責て人をせむるな 及ばざるは過たるよりまさされり」

〈現代語訳〉

人の一生というものは、重い荷物を背負って遠い道に行くようなものだ。急いではいけない。不自由を当たり前だと考えれば不満は生じない。心に欲が起きたときには苦しかった時を思い出さることだ。我慢することが無事に長く安らかでいられる基礎で「怒り」は敵と思いなさい。勝つことばかり知って負けを知らないことは危険である。自分の行動について反省し、人の責任を責めてはいけない。足りないほうが、やり過ぎてしまっているより優れている。

これは家康を神格化した東照大権現に主祭神として祀る「日光東照宮」に残されている遺訓です。時代が経っても良きリーダー像として現代に企業経営にも通じる名言として長く後世に伝えていくべきと思います。



鎌野

能登半島地震

1月1日に発生した能登半島地震は、大きな被害をもたらしました。令和6年1月15日17時現在、1月1日16時以降に発生した地震は、震度7:1回、震度6弱:1回、震度5強:7回、震度5弱:7回、震度4:41回、震度3:150回、震度2:374回、震度1:824回となっています。

震度5以上の地震がこの短期間に16回も発生すれば、建物に及ぶ影響は計り知れません。繰り返し強く揺さぶられれば、木などに打った釘なども折れてしまうことは、皆さんも経験からご存じだと思います。しかも能登半島では、今回の地震の前から何年にも渡り、群発地震が起きていました。これが、被害が大きくなった原因の一つだと思います。

元々、能登半島の複雑な地形をみるに、何か他の地域と違う要因によって形成された半島であることは明白です。古代より地殻変動がダイナミックに頻発していた地域だと思われます。液状化も甚だしく広範囲に及び、復旧にはかなりの時間を要するでしょう。我々の静岡県も東海地震、東南海地震がいつ来てもおかしくないと言われて久しく、他人事とは思えません。更に、富士山の噴火も、いずれは必ず起きるといふ予測ですから、常に災害に備えなければなりません。

とりあえず先日、非常食兼、私の夜食として、カップラーメンやカップカレーなどを大量に購入して、ストックしました。また今は、寝室の枕元に靴を置いて寝ています。備えあれば憂いなしとまでは行きませんが、皆さんも、いざという時の備えを忘れずに。

英樹



配り

第 296 便

勝亦製材駿河鉄骨株

住まい塾御殿場教室

TEL (0550) 87-0048

FAX (0550) 87-1237

〒412-0035 静岡県中山518番地

白菜のまるまるまでに十一年
あちこちおすそわけできてうれし
林 なをみ



気がつけば黄色い膨らみ水仙は春の宙へまっすぐ伸びる
ねがみともみ



元日の能登の輪島は入り日どき大地震津波悪夢ふたたび
勝亦 りつ子



お弁当

最近、週二回、高1の息子のお弁当を作る様になりました。ついでに自分の分も作っているのですが、息子の好き嫌いが多すぎておかずを作るのがとっても面倒くさい難儀しています。シイタケがダメだピーマンもダメ、豆もダメ、ナスは食べられないだの、ブロッコリーには必ずマヨネーズが必要だの、とにかく縛りが多すぎる。母親はよくぞいままですべて作っていたなと感心しています。

一人暮らし歴も長かったおかげで一通りの料理は出来るのです。幸いなことに、もうじき五十路の身としては早起きが苦にならないお年頃でありますので、弁当を作ること自体は取り立てて問題はなく、当初は冷凍食品のお手軽一品も加えて栄養のバランスなど考慮し、野菜多めのおかずとしていました。しかし息子の好き嫌い問題により、おかずを考えるとというある意味一番の難題に直面したのでした。しかし、あまり食に興味が無い息子にリクエストを聞いてみると「毎回オムライスで良い。」とまさかの回答。それならばと、週に1回はオムライスの日。チキンライスに弁当用に良く焼いた薄焼き玉子をのっけておしまい。うん、シンプルで良い。本当はチキンライスにシイタケを入れたりしたいところだがまあ仕方ない。そしてもう一日、これは豚丼で定着してきた模様。これも豚バラ肉と玉ねぎを市販の豚丼のタレで焼いてご飯にのせるだけ。簡単でよろしい！

しかし育ち盛りの男子高校生の栄養価が果たしてこれでいいのだろうか、と疑問にも思うが、どうせ凝ったものを入れても食べなきゃ同じだな、と開き直り、土井善晴先生リスペクトな一品男の豪快弁当にミニトマトや冷凍の唐揚げなどでお茶を濁すのであった。

僕は竹輪にキュウリを差し込んだいわゆるチクキュウが好きなのだが、奴はどうやらそれも苦手らしく箸休め的一品をどうするか問題が残されているのでした。何か簡単美味しい副菜があれば教えて欲しいものです。

世のお母さん方、毎日家事育児ご苦労様です、本当に頭が下がりますよ。



柳田 敏和

2024 始動

先日、初釜のお誘いをしていただいた。着物を着なくてもいいとのことで、覗いてみればとっていただいたので出かけてみた。地元のサークルでお茶を習い、毎年地元の中学生に和 문화体験としてお茶を点てるが、お茶の先生はいなく、サークル内の経験者が教えてくれるので、正式な作法は、知らないと言っていいかと思う。正式な場所に行くのはどんなものかと考えたが、いつものごとく、興味があることはやってみよう！勉強すればいい！と参加した。招く方も招かれる方も皆様、着物で、皆さんの着物を見るのも楽しいなあ。と思いながら緊張していると、初めてのお客様は緊張するからね、楽しんでくださいね。と、声をかけていただきました。

庭にある“つくばい”で手水をかけ身を清め？家に上がるときは前の人から脱いだ履物を重ねて横に順番に置き・・・から始まり、お炭で茶釜のお湯を沸かし・・・懐石料理を頂き、食事をいただいた後、一旦準備の為庭に出る。外に出る際は揃えて置いた履物を前の人から準備する。茶席の用意が整い“ドラ”の音が聞こえたら、また最初と同じようにして入室する。お濃茶、薄茶とお点前をいただく。いつものサークルのお稽古とはまた違った作法と、正式な作法を知らない私にとって新鮮でした。先生は八十八歳という年齢には思えないほど声のハリがあり、知識も豊富。この日のお菓子、花びら餅も手作りしたとは、驚きです。食べることは大事。ということと茶道は奥が深くまだまだ勉強することが沢山ある・・・怒られて覚える。というような事を仰っていました。久しぶりに、人間に対して、これは勉強になるわ！と感じ、背筋を伸ばしました。年齢を重ねても探求したい！という欲があるのは良いことだと思います。見習わないと。とても良い勉強になった一日でしたが、洋服でも長時間の正座は足がツル！と 2024 年が始まりました。この感覚を年末まで覚えているかが問題です。頑張ります。

ねがみ



引っ越し

そろそろ大学生の三男の引っ越しを本気で考えなくてはならない時期となりました。学生とはいえもう成人。本人が手配をするとは思いますが、学年末試験もありなかなか準備は進んでいない様子。

私自身は、引っ越し体験がないので、このところ各引っ越し業者のHPを見ています。それぞれ単身、家族世帯、県内、遠方など得意な分野があるようですが、基本のサービスはだいたい似ているようです。

なるべくお安く済ませたいものですが、少し上のプランを選べば当日、担当スタッフがササッと荷造りまでしてくれるらしい。今回、引っ越し業者も大手以外にもこんなたくさんあるのだなと思いました。

引っ越しの手伝いを、三男には申し出ましたがやんわりと断られました。(見られたくないものでもあるのかな) ちょっと残念。でも呼ばれたら駆けつけるつもり。(楽しそう)



祥子